



SESERAGI-MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンスミス
RIテーマ BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS 地域を育み、大陸をつなぐ

クラブテーマ「親睦をもっと深め、心の奉仕を行動で示そう」 会長 西原克甫
副会長 渡邊照芳 幹事 内田憲一

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL. 055-976-6351 FAX. 055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

第1048回 例会 2011.6.10 (金)曇

司会:土屋 巧君 指揮:久保栄子君
ロータリーソング「我等の生業」

例会場 ブケ東海三島
TEL. 055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ

会長 西原克甫君



リニア中央新幹線
環境への配慮最大限に
JR東海は2014年の着工を目指しているそうです。
南アルプスを貫通する長大トンネルは静岡市を通過する。トンネル建設に伴う工事用道路などの関連整備が南アルプスの観光に寄与するとみて、静岡県と静岡市は南アルプスの環境保全を含め一体となり、JR東海に協力していく方針だそうです。

現場は山岳地帯で難工事が予想されるため工事に際し、美しい景観の維持や希少動物の保護など環境保全に最大限配慮して戴くことが前提です。

県と静岡市は環境影響評価(アセスメント)に向けて地域関係者らとJR東海との意見交換の場を設置し計画の前に自然への影響調査などを事業者側に義務付ける戦略アセスを盛り込んだ改正アセス法はこの春成立したが施行まえだが、注目の巨大大事業だけに先取りして実施する必要があると県民への細かな情報提示も欠かせないと思います。

長大トンネルが建設される付近一帯は特殊東海製紙の社有林だそうですので山梨県側に比べれば、入山者は少なく、雄大な自然が保たれているとのこと。静岡、山梨、長野3県の自治体で南アルプスを世界自然遺産にしようという運動も進められているそうです。

一方で、南アルプスの手つかずの自然は将来、富士山や伊豆と並ぶ有力な観光地になる可能性を秘めている。工事用の道路や駐車場、作業員の宿泊施設などは、そうした視点で配置場所を考えていく必要性があります。

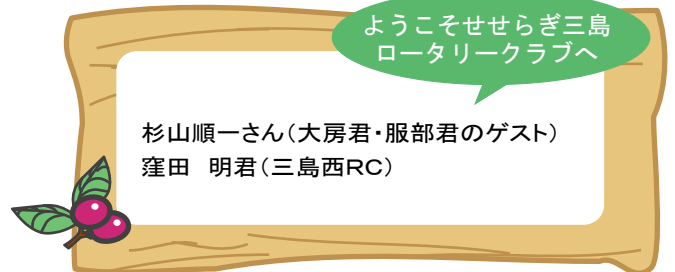
大井川源流部の奥大井から南アルプスを視野に環境保全という厳しい制約の中でどう観光に結びつけ

るのか。具体的な観光戦略が必要だろう。

例えば、南アルプスに入ることができる車両は電気自動車だけとし、途中で充電器を配備することも考えてもいいし。入山者も一定の人数に限定することも必要だと思います。南アルプスの県内通過区間は地下の長大トンネル約20キロの約10キロ部分になる見通しだそうです。

是非環境に配慮し今後の観光に役立ててほしいです。

私は、多分生きて見ることができないと思うと残念な気がします。



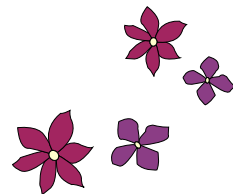
ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

杉山順一さん(大房君・服部君のゲスト)
窪田 明君(三島西RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/30	96.67%	30/30	100%
今回	27/31	87.10%	会員総数	33名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。
石井(司)君、遠藤君、山口(辰)君、山本(章)君





スマイルボックス

澤田 稔君:例会に出席出来ず申し訳御座いません。当クラブの震災に対する支援には心あたたい奉仕で敬意を表します。私もロータリーの原点であります職業を通して社会奉仕を行っております。ロータリー精神のおかげで社会貢献が出来る事が生まれました。業界誌でその事を取り上げて頂きました。

石井邦夫君:先日、米山さんの会社に立ち寄った時の事、米山さんが包丁を持ってその日の朝に釣ってきたイカを社員に食べさせるんだと言って料理していました。私も3杯いただき、その夜刺身にして家族でいただきましたのでスマイルします。

山本良一君:会員候補通知があり2名の優秀な会員が誕生します。増強委員会として皆さんに感謝いたします。あと1ヶ月です。更なる増強をお願いいたします。

ROTARY NEWS

今こそポリオ撲滅に全力投球を

世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）は、新たな戦略計画と二価経口ポリオワクチンが昨年導入されて以来、大きな進展を遂げてきました。近年、ポリオのない国へのウィルス感染の原因となってきたインドとナイジェリアでも、2010年には前年と比べ感染数が95%減っています。

5月の世界保健総会で、マーガレット・チャン事務局長はこのような進展を高く評価した一方、「撲滅活動が終わったわけではなく、私たちは撲滅が達成されるまで見届けなければならない」とも述べました。GPEIの独立モニタリング委員会（IMB）の4月の報告によると、インドとナイジェリアでの進展に加え、アフリカの15カ国でも、2009年に始まったポリオ流行が収束しました。GPEIの主導機関（世界保健機関、国際ロータリー、米国疾病対策センター、ユニセフ、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団）は、IMBが報告の中でポリオ撲滅を「確実に可能」かつ「絶対に必要」だとし、各国政府、寄付者、主導機関のさらなる支援があれば、進展が思わしくない国々においても、今後大きな進展が十分可能であるとの見解を示したことに注目しました。そのうちの1国、パキスタンでは、今年の終わりまでに感染を完全に絶つことを目標として掲げ、「全国一人残らず子どもに予防接種」するためにロータリアンが懸命な活動を行っています。

卓話

JU中販連会長・理事長 澤田 稔君

今回のような大規模災害の時こそ、JU中販連（日本中古自動車販売協会連合会）という販売店組織の社会的な使命を果たすべきだと思います。今回の被害規模から義援金は2億円は必要と考えた。事務局が「JUみんながんばれ 1day（ワン・デイ）募金」という構想を考えてくれた。自分が1人で一日現地ボランティアに赴いたとして、その賃金を募金にというアイデアから誕生した。会員からの募金一億円と本部の拠出一億円を合計して二億円になる。集まったお金は災害自治体や日本赤十字などに寄贈する。

当初、福島からの出品車は放射線を浴びているということで、オークション会場で放射線量検査を受けたり、出品を待たされたりしたようだ。工業製品と食べ物は違うと思っていたが、風評も含めて、人々は放射線と聞くだけで神経質になる。日本からのクルマは放射性物質に汚染されていると思われ、中古車輸入を拒否する国も出た。クルマは水で洗い流せば放射性物質は落せるという情報を会員や皆様に伝え、それぞれクルマの放射線量を計測して掲示した方がいい。

被災地では、いち早く地元の中古車販売店が営業を再開してくれたことが、地元の復旧、復興の手助けになっている。何ととっても、クルマはライフラインの一部だから。極端な話、事務所はテントで、空きスペースにクルマを並べれば商売はできる。中古車の販売店は地域密着で、粘り強い経営者が多い。これまで以上に結束は固くなった。よそ見している暇はないから。義援金の活動で、団結力を実感した。今回の地震、津波で店舗を壊され、流されても、中古車販売店の経営者は挫折しない。

PHOTO GALLERY

